

◇巡検の記録◇

菅平巡検（9月7～10日）

9月7日。早朝上野駅集合。車中で周囲の好奇の目にてれながら、トランシーバーで事前研究発表。熊谷付近で陸田を見る。途中妨害電波出現の為、やむなく発表を一時中止。宿舎到着後昼食をとり、午後9時半まで発表を続ける。なんとというハードスケジュール！巡検は授業なのだとは分かっているも、なんとなく旅行なんていう楽しい感覚がぬけきらなくて、ふわふわしていたら、先生の痛いお言葉。ああ、巡検即ち日々是勉強、身にしみて理解。

9月8日。根子岳（2200m）にアタック。途中、発煙筒を使って風の実験。煙は先生の説明どおりみごとに山の斜面に沿って上に上っていった。山頂で付近の地質についての説明を聞き、北海道北部と同じ気温である菅平の山の寒さを満喫して下山。帰りは私と友人二人で、アスマン通風乾湿計で根子岳の気温減率を測定。時間差を極力縮めるために、200m15分という超スピードで、駆け降りた。

9月9日。今日は現地調査で、各自分担した目的に従って散った。私達の勉学への情熱は、ここ菅平の教育委員会の人々の心を打ち、休館中の「自然館」をわざわざ開けて見せてくれた。観光会館でも快く応待してくれ、菅平の歴史、現在の状況、これからの展望など色々話してくれた。しかし極貧の山村から現在の菅平に到るまでの人々の生活との戦いは聞くも涙、語るも涙の物語である。

今日は調査も進み、菅平の親切な人達に会えて、良い日であった。

9月10日。4:20AM。隣の部屋から壁ごしに起床の合図。寝惚け眼で起き出して、ダルマのようにありったけの服を着込んだ。先生、勇さん、そして私達麗しき乙女4人はまだその他大勢がぬくぬくと眠っている宿舎をあとに、太郎山（1450m）の道なき道に挑んだ。前日、本郎山のリフトの柱にそって設置しておいた最低温度計を読みながら回収していく作業をする為だ。

セピア色の空気がだんだん薄桃色になって行く。それと共に私達は胸まである草の露で全身ぐしょぐしょに濡れていった。

7℃の気温の中、泥と露にまみれながらも、私達は強く任務を完遂した。宿舎の前で、全員勝利のポーズで記念撮影。朝の味噌汁が美味であった。

菅平をあとに、孀恋キャベツの農協の人のお話を聞いて、東京に向った。

（浅井先生指導、1年 小中千恵子）